

奨励賞



設計担当者

益子一彦

(株)三上建築事務所、茨城県建築士会

義務教育学校(校舎)／茨城県日立市

日立市立 中里小中学校

構造 | 木造
一部鉄筋コンクリート造
鉄骨造

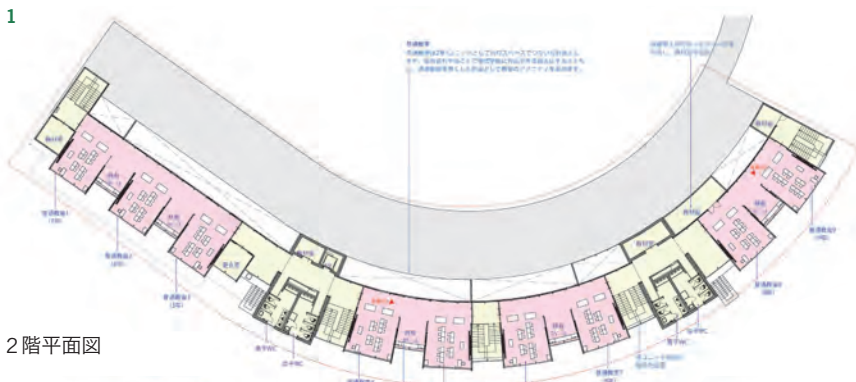
敷地面積 | 15,030.17㎡

建築面積 | 2,069.02㎡

階数 | 地上2階

延べ面積 | 2,839.70㎡

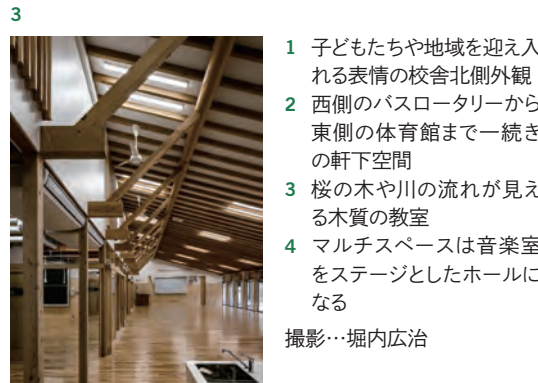
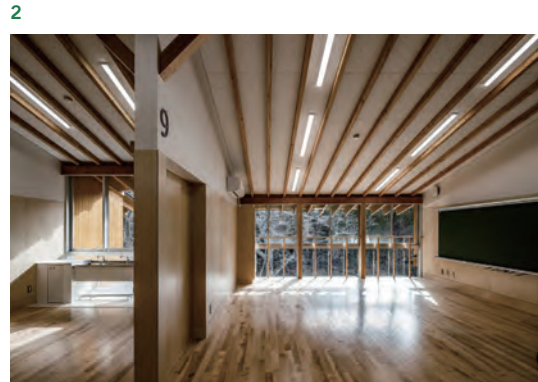
竣工年 | 令和4年



2階平面図



1階平面図



- 1 子どもたちや地域を迎え入れる表情の校舎北側外観
- 2 西側のパスロータリーから東側の体育館まで一続きの軒下空間
- 3 桜の木や川の流れが見える木質の教室
- 4 マルチスペースは音楽室をステージとしたホールになる

撮影…堀内広治

選評

JR日立駅から西に7kmほど行った山間部の集落にある小中一貫の教育を行う義務教育学校の校舎。小規模特認校のため、生徒は通学区域に加えて日立市内全域から通っており、独自の教科として「コミュニケーション科(英語等を学ぶ)」を設ける等の特徴ある教育を行っている。

既存の体育館につなぐ形で校庭に沿ってR状に方流れ屋根の校舎を配置し、廊下状の通路(1階は中廊下式、2階は片廊下式)に

沿って各室を設ける。主要各部は無垢材を使った木造で、階段等のある部分2カ所をRC造(外観は蔵に似せる)にして防火区画としている。校庭側に葺き下ろした大屋根の軒下に、縁側のような通路をとって内外の中間領域として有効に機能させている。各学年の生徒が学ぶ教室は開放型で2階にあり、校庭とは反対側にある裏庭に向かって窓を開く。裏庭側には桜の並木を介して公園の遊歩道と川があり、教室の窓からそれらを一望できて心地よ

い。唯一残念なのは、公園と川が県の管理で、裏庭と一体化できていない点である。

突出して際立ったところはないが、各部に工夫がある完成度の高い建築で、軸組や小屋の架構も簡易かつ明快な構成である。地方における無垢材を用いた公共施設の木質化の模範となる好例として、奨励賞にふさわしい建築といえる。

(後藤 治)